

わが社の運輸安全マネジメントの取り組み（令和5年度）

会社名：白金運輸株式会社 本社営業所	代表者名：代表取締役社長 海鋒 徹哉
--------------------	--------------------

<p>わが社の事故防止のための安全方針</p> <p>当社は、国内物流の根幹を成すトラック事業者として、輸送の安全確保が最も重要であることを自覚し、関係法令・規則の遵守を徹底し、絶えず輸送の安全性向上に努めるとともに、企業の社会的な責務を果たすことを第一の目標とする。</p> <p>社内への周知方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所に安全方針を配布・掲示し周知徹底を図る。 2. 安全衛生推進会議等の機会を通じ周知徹底を図る。
<p>安全方針に基づく目標（令和5年4月1日～令和6年3月31日）</p> <p>事故発生率 対前年度事故発生率 30%改善（有責交通事故0件）</p> <p>運行事故：0.034%（概算値：3件／8,147件以下）</p> <p>作業事故：0.308%（概算値：2件／682件以下）</p> <p>目標達成のための計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 目的志向の自覚人財の育成 ② 安全対策としての「見える化」の推進 ③ 現場安全パトロールの強化 ④ 班会議等集合教育の充実化
<p>わが社における安全に関する情報交換方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点呼時における各種安全情報の聴取及び安全衛生委員会や班会議等の小集団活動の場で、運行上の危険箇所やヒヤリハットについて討議し情報の共有化を図る。 2. 社内掲示板等を活用し安全に関する情報を掲示し周知徹底を図る。 3. 月次の安全衛生対策本部会議及び安全衛生委員会、班会議等で伝達と情報交換を行う。
<p>わが社の安全に関する反省事項（令和4年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生した事故の原因の殆どが基本的安全動作を怠ったことによるものであった。 2. 過去に発生した事故が教訓として活かされず類似事故を複数件発生させた。 3. 運行における荷役作業中の事故が全体の約半数であり労災事故も発生させた。 4. 班会議等の小集団活動が成果として現場で活かされていない。
<p>反省事項に対する改善方法（令和5年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種法令及び社内ルール等に適応するコンプライアンスを徹底させ事故防止を図る。 2. 「三自の精神」及び「基本の反復・反芻」の浸透を図る。 3. コメンタリー運転と指差呼称の徹底を図る。 4. 管理者が、主体的に「見える化」等の対策を講じ継続的に行う。

わが社の安全に関する目標達成状況（令和4年度の結果）					
目 標	運行事故：0.121% 9件／8,034件以下	⇒	結果	0.049% 4件／8,147	達成
	作業事故：0.057% 0件／1,119件以下	⇒	結果	0.440% 3件／682	未達
※運行事故件数は、交通事故や貨物破損等を含む運行に関する全ての事故件数である。					
わが社の自動車事故報告規則第2条に規定する事故（令和4年度の結果）					
0件					
わが社の事故に関する情報（令和4年度の結果）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 事故発生総件数は前年度から大幅に削減できたが、有責交通事故1件を発生させた。 2. 事故総件数の約半数が運行中の荷役作業における事故で、労災事故も1件発生した。 3. 事故防止対策として定められている社内ルールを遵守せず、過去に発生している類似事故を再発させている。 					